

ICTで生まれる 新しい空間認識 (後編)

玉川大学教育学部
准教授 濱田英毅

後編

オンライン授業で意識したい
授業者の「新しい空間認識」

空間の“見方”を変えるだけで
ICTは不可欠な存在へと変わってゆく

目標

デジタル空間の特性を理解し
その本質をオンライン授業で活かす

- ⇒ LTD話し合い学習法（反転授業）
で見えた可能性
- ⇒ プレゼンテーションにおける
チャット機能活用の可能性

対面授業とオンライン授業

: 特性の整理

対面授業

直接対面
教室 = 集団の空間
複線型コミュニケーション
⇒ **雑談**からの創発に向く

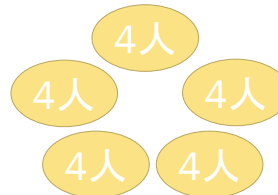
オンライン授業

画面越し対面
画面 = 個人の空間
単線型コミュニケーション
⇒ **目的が明確**な空間

<発想の転換>

- 空間がオンライン上に限定された
⇒ 空間をオンライン上に**限定できる**
- 一人一人の意見を聞くことが難しい
⇒ 大勢の意見を**一斉に集められる**
- 雑談ができない
⇒ **雑談をさせない**で済む

令和2年度春学期「名著購読」×2
(21名・18名)



4人グループを
基本とした
ディスカッション

協同学習とオンライン授業

LTD話し合い学習法 (Learning Trough Discussion)

- ＜教材＞ 新渡戸稲造『武士道』
- ＜予習＞ 一人3～4時間程度
※授業評価の統計結果より
- ＜授業＞ 予習課題に基づき議論
※A4で3～5枚が平均

大学の実情に合わせてオリジナル化

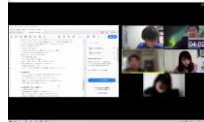
- Step.1 雰囲気づくり 4分
- Step.2 言葉の理解 6分
＜意見共有＞
- Step.3 主張の理解 6分
- Step.4 話題の理解 10分
＜意見共有＞
内容解説
- Step.5 知識との関連付け 10分
- Step.6 自己との関連付け 10分
- Step.7 課題文の評価 3分
ミーティング記録紙の記入
- Step.8 学習活動の評価 3分

時間の管理と グループ統制の重視

オンラインとの
意外な親和性

＜昨年度からの改善点＞

- 話を続けたくなくなってしまう
⇒ 時間が経つと強制終了
⇒ 結果としてメリハリがつく
- 気が散って隣のグループと雑談
⇒ ブレークアウトセッションで強制的に分離
⇒ 議論に集中し、予習課題の質が向上
⇒ 議論に集中し、最後の課題の質が向上

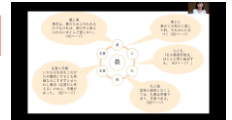


◎ 意図せず生まれた好循環

深い学びが創造性を進化

＜最終プレゼンテーション＞

- 武士道と恋愛～恋をしたいあなたへ編
- 海外のヒーローと日本のヒーローの比較と武士道の関連について
- 武士道とスポーツ
- 武士道 - SNSから読み解く現代の武士道のかたち
- オタクの精神
- それいけ！アンパンマンザムライ
- 現代に生きる仁
- アンパンマンの武士道とは
- ルパンの持つ武士道
- アンパンマンで観る武士道 ～仁・礼～



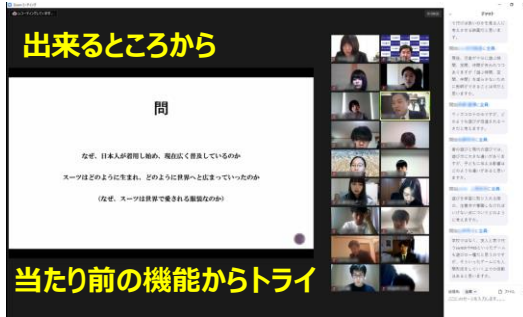
目的が明確な学びに
向くため
空間に囚われるのではなく
自覚的にマネジメントする

令和2年度秋学期「ゼミ卒論報告会」

これまで対面だったが・・・

命題

：オンラインで議論をどう活性化？



効果的だった点

- 一人で発言するプレッシャー減
⇒ **普段発言しない学生が発言**
- 口頭で説明内容を整理するプレッシャー減
⇒ 文章で内容を整理しようとする
(ただし遅い。スピード感をもって答える練習が必要)
⇒ 文章に残るため真剣とならざるをえない
- **他人の発言を見ることで、多面的・多角的な視点**を得たり、知識の関連性を見出したり知識を深掘りすることにつながる
- 質問待ちの時間減
- プレッシャー減で参加感を得やすくなる

課題として残る点

- 質問を投げかけるのが遅い
⇒ **質問を考えながら聞く姿勢にない。**
教わるから学ぶへの体質改善が必要
⇒ 質問を考えながら聞かなければならないことで、**真剣に発表を聞く傾聴の姿勢が身につく**
- 本質的な質問がある中で、考えの浅い質問もある
⇒ **プレゼンテーションの構造的理解を促す指導が必要**
- 質問に対する回答を確認したい
- 質問に対する回答への返答がほしいとの要望
⇒ 授業後にデータを開示し、さらに議論を促す

かんたんな所から
手を付けられることがある
楽な気持ちで
ICTを実践しよう